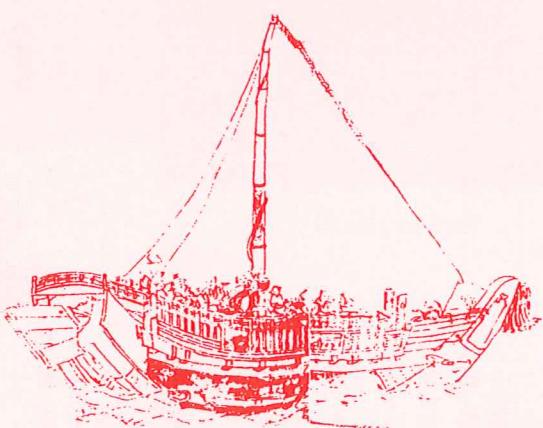


# 日本 流人島史

その多様性と刑罰の時代的特性

重松一義  
しげまつかずよし  
著



不二出版

体裁—A5判・上製・208頁

定価—本体3,800円+税

2011年11月刊行

ISBN978-4-8350-7078-0

日本獄制史を補完する  
流刑の歴史を概観!

わが国では、死罪に次ぐ重刑であった「流刑」。その起源は王朝時代に遡る。権力による政争や宗教観の相違に立脚するものもあれば、時代により身分に左右される不本意な縁坐・連坐の例も多く、牢獄・徒刑とはまた異質の不条理な刑罰であった。

代表的な流刑地、伊豆、佐渡、本州中部・駿河・相模・房総、四国・瀬戸内、九州・西国、出羽・陸奥・蝦夷、沖縄・先島を七章に分け、参考記録で小笠原諸島にふれる。「島流し」の諸形態・時代的特性を網羅するとともに、信州高遠・越中五箇山・筑波山麓など、内陸部の「陸流し」具体例もあげる。日本獄制史の研究における第一人者が、「島国日本」の別世界——流刑を歴史的に回顧し、法制史的観点から考察する。

流人島と聞けば、もはや現代人の想像の及ばない別世界として、過去に置き忘れた世界と誰しもが思われよう。筆者はさきに『日本獄制史の研究』(吉川弘文館、二〇〇五年)を記したが、同時に流刑部分は牢獄・徒刑とはまた異質の分野として、獄制史を補うものとして、改めて別稿の必要を考えていた。

ただ流刑は、時代背景により地域性などに左右される特色もあり、体系的・斉一的な論考がやや難しく、(一)伊豆、(二)佐渡、(三)本州中部・駿河・相模・房総、(四)四国・瀬戸内、(五)九州・西国、(六)出羽・陸奥・蝦夷、(七)沖縄・先島、の七章に分け目次を組み、参考記録として小笠原諸島に触れ、今般は『日本流人島史——その多様性と刑罰の時代的特性』と題し、その学問的な考察を試みた。

流人島といえば一般的に、いわゆる「島流し」とのみ想定されがちであるが、信州高遠・越中五箇山・筑波山麓などへの陸流し形態も含め考察を試みてみた。これらの人々の流刑過程から、人が人を裁く論拠が、権力による政争・宗教観の相違に立脚するものもあれば、時代により身分に左右される不本意な縁坐・連坐の例も多く、その罪責を問う重大な誤差・痛みにも気づかれるものがある。これを歴史的に回顧し、どう見るかも現代人の刑罰と取組む課題の一つといえる。

すでに跡形もなく消えた、かつては流人島と一方的に決めた島々とはいえ、それは実に風光明媚、資源人情に恵まれた“島国日本”的別世界であることを知る。それだけに経済・外交・福祉など、多角的に利用開発が待たれる再発見の舞台として、地球上に与えられた友交共助の飛び石としての役割りも改めて見出されよう。

## 重松一義



新島流人寒中生活

本文組見本・80%に縮小

45

ごくその一部の抜粋にすぎないが、大名宇喜多秀家の末裔・一族にあたる子女がこのような生活苦のもと、なお孤島で生き抜こうとするのであり、飢餓で餓死してゆく流人の悲惨さは想像に余りあり、まさに流刑が末孫にまでもたらす理不尽な罪なき家族刑の実態を知るのである。今日その自活の生活実態をリアルに知ることはできないが、身を寄せ合う新島流人の寒中生活の絵(『新島流人寒中生活』参照)などから辛うじて相像することができよう(拙著『國説・世界の監獄史』柏書房、二〇〇一年、六〇頁)。

### (四) 伊豆流人の総括的一所見

ただ、伊豆流人として送られてきた関ヶ原の戦の西軍総帥・大大名・備前岡山城主宇喜多秀家の場合をみると、

- (1) 立地条件と流人数……江戸から一一九キロ、椭円形をなす伊豆第一の大きな島。流刑地としては江戸に近すぎ、温暖で生活が容易である等から不適当との批判があった。古くは寛文一二年(二六七二)江戸淨瑠璃坂の仇討で知られる奥平源八郎、元禄一〇年(一六九七)には代官伊奈兵衛門、元禄一六年(一七〇三)には赤穂浪士の遺児間瀬定八ら四人や、犬の足を踏んだ落語「武助馬」で生類憐みの令に触れた鹿野武左衛門らも流されている(『落語系図』)。
- (2) 各種事犯の発生状況……流人の悪質事犯久七を簾巻の刑に処し、島民は久七を海に突き一人の娘があり、“親は城州子は大島にさく”
- (3) 牢舎・戒具……古くは寺社の御堂を利用置く方針を探っている(立木猛治『伊豆大島志考』期にあたり、元文(一七三六)から急減し、わずか年者が大島送りとなつて以降配流は絶えてい『伊豆國附鷲々様子大抵書』、萩原正夫『伊豆七島略』)
- (4) 流人の遺構……文禄の役で捕らわれたこの島に慶長一七年(一六二二)流すが改宗せ

27

### ◎大島

(1) 立地条件と流人数……江戸から一一九キロ、椭円形をなす伊豆第一の大きな島。流刑地としては江戸に近すぎ

る、温暖で生活が容易である等から不適当との批判があった。古くは寛文一二年(二六七二)江戸淨瑠璃坂の仇討で知られる奥平源八郎、元禄一〇年(一六九七)には代官伊奈兵衛門、元禄一六年(一七〇三)には赤穂浪士の遺児間瀬定八ら四人や、犬の足を踏んだ落語「武助馬」で生類憐みの令に触れた鹿野武左衛門らも流されている(『落語系図』)。

元禄以降は武士より低位の無宿といった流人が多くなり、取締上、山方でなく浦方(元村・岡田村周辺)にのみ流人を

置く方針を探っている(立木猛治『伊豆大島志考』期にあたり、元文(一七三六)から急減し、わずか年者が大島送りとなつて以降配流は絶えてい『伊豆國附鷲々様子大抵書』、萩原正夫『伊豆七島略』)

それである。

(2) 流人の遺構……文禄の役で捕らわれたこの島に慶長一七年(一六二二)流すが改宗せ

# 本書を

推薦  
します

## 戦犯裁判の実相 全2巻

(上巻) 巢鴨法務委員会 編

(下巻) 茶園義男・重松一義 共著

関連図書

関連図書

原胤昭 主宰

(明治27年～明治29年刊)

## 獄事叢書 全3巻・別冊1

東京大学名誉教授  
学士院会員・法務省特別顧問

早稲田大学名誉教授  
早稲田大学元法学部長

大阪市立大学名誉教授  
元奈良産業大学法学部教授

青山学院大学名誉教授  
元関東学院大学法学部教授

松尾浩也 「刑事訴訟法」  
杉山晴康 「日本法制史」  
牧英正 「日本法制史」

高窪貞人 「刑法」  
吉田正志 「日本法制史」

伊能秀明 「日本法制史」

(敬称略・順不同)

B5判・上製・総980頁  
揃定価30,000円  
(上巻) 20,000円  
(下巻) 10,000円  
'96年1月刊

A5判・上製・総1272頁  
揃定価45,000円  
'98年9月刊(復刻版)

BC級戦犯裁判の全法廷における被告と裁判内容を伝える唯一の資料。

蘭領印度地区、米国關係  
仏領印度支那、英領地区(以

上、上巻)、中国、豪軍、比軍  
マニラ(以上、下巻)の各地に

おけるケース別起訴理由、被告  
の所属・階級・判決・弁護人名

を記載。上巻は、一九五二年ス  
ガモブリズン内のBC級戦犯の  
手によってガリ版にて刊行、模

書房によつて活字化された。下  
巻は、上巻に未収録の地域を補  
い、解説と上巻の正誤表及び解  
題を付す。

● 推薦＝重松一義・茶園義男・  
福岡千代吉

● 推薦＝重松一義・谷昌恒

本誌は、出獄人更生事業で知ら  
れるキリスト教教説師・原胤昭  
が、監獄を囚人懲罰でなく囚人  
更生のために改良しようとして起  
した監獄改良運動の機関誌であ  
る。発行は北海道樺戸にある集  
合監内の同情会。かつて筆禍事  
件によって自らも下獄した経験  
のある原は、同志社出身の教説  
師たちを集め、監獄改良事業を  
展開した。北海道の監獄のニュ  
ースを掲載し、監獄改良論を披  
瀝すると同時に外国の監獄事業  
を紹介するなど、監獄改良を志  
す人々に情報を発信した。

不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12  
電話 ▼03-3812-4433  
FAX ▼03-3812-4464  
振替 ▼00160-2-94084